

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社



滿鐵調查報告

第四輯

11

滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

11

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社

· 桂林 ·



南滿洲工業事情

滿鐵庶務部調査課 一九二六年十一月

.....

1

續南滿洲工業事情

滿鐵庶務部調査課 一九二八年二月

.....

81

滿鐵調査資料第一百〇三編 滿洲針織工業

滿鐵庶務部調査課 一九二九年七月

.....

185

滿洲水泥工業及其需給狀況

滿鐵總務部調査課 一九三〇年八月

.....

277



南滿洲工業事情

パンフレット第二十九號

南滿洲工業事情

南滿洲鐵道株式會社

庶務部調査課

例言

一、本パンフレットは大連並に滿鐵沿線に於ける有力なる邦人會社を訪問し、其幹部に就いて直接聴取せる所と、本年三月大小五百餘の工場に配付して記入を乞ふた工場現況調査表とによつて編述せるものである多忙の折柄心よく面談並に回答を與へられたることを厚く感謝し、將來も亦滿洲の爲此種の援助を惜まれざらんことを懇願して止まない。唯工場調査表によつて回答せられたるもの僅に三分の一に過ぎなかつたことは遺憾であつた。

二、勿論調査表は秘密を守るべきを約束したので、本パンフレットには之に違ふ何等の事實をも述べて居らない筈である。

三、調査表による回答は數より見る時は此の如く不成績であつたが有力なる工場は全部網羅されて居るを以て大體の趨勢を窺ふには十分であると思ふ。

四、工業の種類を分つに普通機械、染織、化學、飲食物、雜業の五種となすやうであるが、此分類には元來頗る無理が存するを以て、滿洲に於て比較的多く投資されて居る窯業、製材工業を前記分類中より分離して獨立の項目とした。油房業の如きも勿論一項目として特別に考察するべきではあつたが、回答工場數が極めて少かつた爲に之を其儘化學工業中に入れて置いた。尙斯業に就いて詳細を知らんとする者は當課員安盛氏の編述に係る『滿洲に於ける油房業』を参照されたい。

例 言

二

五、回答を得たる工場中には單に内地の會社の一支工場として活動しつゝあるもの、一會社が一以上の工場を有する場合、或は休業せるもの等がある故、工場數を以て直に事業數とすることが出来ないのは勿論であつて、以下各所に掲ぐる統計には之を其目的に合するが如く取捨配合した。試に其内譯を見れば次の如くである。

事業數 一四六

回答工場數 一六九

右の中

内地に本據を有し單に其一支工場として作業するもの 四

滿洲に本據を有する一事業の支工場として作業するもの 一二

休業中のもの 七

六、本調査の擔當者は課員阿部勇である

大正十五年十一月二十六日

庶務部調査課

目次

緒言

第一節 資本	一
第二節 原料の蒐集	四
第三節 包裝材料	一〇
第四節 勞力	一〇
第五節 職員	三
第六節 燃料	三四
第七節 電力	三三
第八節 工業用水	三七
第九節 工場設備	三九
第十節 金融	四三
第十一節 工業生産高と販路	四八

目次

二

第十二節 企業の人格的要素.....	三四
第十三節 結論.....	三五
附 錄 第三回關東廳經濟調查會に於ける原始産業特別委員會決議書抄錄.....	三五

南滿洲工業事情

緒言

滿洲の新式工場は現在六百有餘資本金約二億圓にして、支那の工業上江蘇、山東、廣東の諸省に次いで重要な位置を占めて居るが、工場の大部分は關東州内及滿鐵沿線に存し、日本人の投資する所である。故に滿洲工業の盛衰は獨り支那のみならず、日本自身にとり輕視さるゝを許さないものである。然るに不幸滿洲の工業は今や其恢復の日の何時期すべきやも計り難い程行詰つた状態に陥つて居る、恐らく之は獨り歐洲大戰後の大不況にのみに全責任を轉嫁すべきものではあるまい。若し現在の窮境が單に戰後財界の破綻に原因するものであるとすれば爾來年を閱すること七年の長きに垂んとし直接戰禍を蒙つた國々ですら着々立直の歩を進めて居る、況して滿洲の如き企業要素を完備せると云はるゝ土地は前途の曙光を認めてもいゝ時機ではないであらうか。而も尙暗中摸索を繼續するに於ては却つて滿洲が工業經營上幾多の缺點を有するとの疑が當然起つて來ねばならない。關東廳、滿鐵等の指導機關を初め一般重業家も今や靜に其失敗の跡を検討する機會に接して居ると信ずる。從來滿洲は何事にまれ有望の二字を以て宣傳せられ、滿鐵關東廳の産業助成は之を裏書するか如く見られた。宣傳によつて資本の流入を誘ふことは勿論必要且結構なことに相違ないけれど、然しそれは真相を全然誤り傳へるものであつてはならない。如何な

緒言

二

る困難、如何なる不利不便と戦はねばならぬかといふことも亦同時に說かれる必要がある。次の數節は此意味に於て述べられたのであるが、決して完全なものでなく、未だ其真相に觸れて居ないと思ふ。又其論ずる處は悲觀的色彩が濃厚であつて、やゝ色眼鏡を以て見た感なしとせない。將來廣く且つ詳しい資料を蒐集し得て之が足らざる所を補正し、併せて滿洲工業を樂觀的に考案し得るに至ることを期待して止まないのである。

第一節 資本

現在滿洲は新式工場六百有餘を存すれど大資本を以つて經營せらるゝもの極めて少く僅に十指を屈するに過ぎない。過般調査表を配付せる工場約五百にして、其中回答に接したるもの三分の一にも満たざる少數ではあるが、大規模に經營せらるゝ工場は盡く之を網羅することを得たるを以つて回答工場に就ての資本別を見れば滿洲工業の規模如何を容易に知ることが出来るであらう。

即ち調査せられたる事業の一個當り平均資本は（本社を内地に有し其一支工場として活動しつゝあるもの及休業中のものは資本の計算に於ては之を除去した）公稱資本に於て六十萬圓拂込資本に於て三十五萬圓に過ぎず、而して又百四十六事業中公稱資本五十萬圓未滿のもの百九にして殆んど其七割五分に達し、五萬圓に滿ざる微力なるものゝみを以つてして尙六十、全事業の四割の多數を占めて居る。故に爾餘三百に近き無回答の小工場を合すれば、其事業一個當り資本は益々小となるべく、滿洲の工業は尙小規模經營の域を脱せざるを知る。

斯の如く滿洲には大工業が少いのであるが代表すべきものを擧ぐるならば、化學、飲食物、窯業、染織の四業であらう。而して化學、飲食物兩工業の代表的事業として數へらるゝ所以のものは、前者が油房、製燐、後者は製粉、製鹽等の滿洲に於ける有力なる事業を含むことに在るを以つて前記四業を油房、染織、窯業、製粉、製燐、製鹽の六業に換言するを適當とするであらう。左に之等事業の資本的分野並に大事業の分布を百四十六の調査表に現はれ

たる所を以つてすれば次の如くである。

公稱資本總額は約九千萬圓にして、飲食物工業約二千五百萬圓、染織、化學兩工業の各々約一千七百萬圓、窯業約一千萬圓、機械工業約五百萬圓、製材業四百萬圓、雜業一百萬圓の順位をなし、拂込資本は總額に於て公稱資本の約五割六分の五千萬圓にして、事業別拂込資本額の多少に於ては略々前者と同様の順位をとつて居る。又經營の相當大なる事業——公稱資本五十萬圓以上の事業は化學工業の十一を以て首位となし、飲食物工業の八、窯業、染織兩工業の各六之に次ぎ、機械工業三、製材業二、雜業一の分布をなしてゐる。

之を要するに滿洲の工業は主として小資本を以つて經營せられて居るのであるが、邦人經營の中小工業は華人の爲に壓迫せられつゝある。事業そのものの性質上支那人の窺視を許さざるものは暫く措き其他の工業に於ては中小商業に於けると同様の運命をたどることは疑ひを容れない。されど支那人事業の弱點は大資本募集に困難なること、換言すれば、大資本を以て最新式經營を容易に企圖し得ざること存する。故に邦人が將來滿洲の工業に貢獻する處あらんとせば大資本を以て事業に参加するの用意がなければならぬ。況や昨今華人間にも製粉、油坊、織布等の各方面に於て相當大なる事業が行はれて來て居る、昔時の如く徒手空拳を以て成すあらんことは決して許されないのである、此の如く一方華人工業の影響を受けつゝあると共に滿洲は後述の如く日本等の工業經營に比較して種々の不便を有して居る。之等障礙を突破するには是非とも資本の力を借りねばならないのであつて、日本に於て事業を創むると同様の資本の用意を以ては未だしと言はねばなるまい。

南滿洲工業事情

十萬圓以上五十萬圓未満ノ事業數
五十萬圓以上百萬圓未満ノ事業數
百萬圓以上二百萬圓未満ノ事業數
二百萬圓以上ノ事業數

計

四〇 一 一 一 七

一四 二 二 二 三

九 一 一 一 三

三〇 一 三 二 七

二〇 三 三 二 六

二四 二 五 四 四

九 一 一 一 二

一四六 一〇 一六 一一 三二

四

第二節 原料の蒐集

農牧林等の原始産業を基本とする土地殊に日本といふ著しく工業の發達せる國と一帯帶水の間に見ゆるが如き土地にあつては工業を起さんとすれば其產物を取つて直に原料となし得るの便宜がなければならぬ。然るに滿洲は之等原料の產出に於て一方に偏し、大豆、高粱の農作物、木材、鹽、窯業に必要な粘土類を大量に產するのみなるを以て紡績、製麻、毛織、煙草、製糖、機械等の多くの事業は其原料の大部分を日本及外國の供給に仰いで居る。而して輸入外國原料は一旦大阪神戸等に陸揚せられて後轉送せられるを以て運賃、手數料等に於て莫大なる不利益を蒙るのみならず、日本に比較して購買機關不備なるが故に取引の迅速を缺き品質、數量共に其欲する所に從つて買ひ得ざるの不便を忍ばねばならない。

調査工場が大正十四年中に使用せる原料の總價格は二千八百萬圓にして、其中滿洲產の物資は僅に一千萬圓總價

格の約三割六分に該當するに過ぎない。地味豊かな農産地の滿洲に原料がないといふことは或は不可思議に思はれるかも知れないが、事實大多數の事業は原料の蒐集に就いて可成大なる苦心を拂ひつゝあるのである。

斯の如き原料蒐集難は其歸する處上述の如く農産物が大豆、高粱等の一方に偏し従つて各種事業に使用さるべき、其他の物資の産出が少ないといふ事に在るのであるが、尙この主要原因以外の二三事情を挙げれば次の如くである。

(一) 一時の自然的事情に依る不作

小麦、甜菜の産額は此兩三年の不作續によつて驚くべき減少を示し、爲に製粉、製糖等は甚しき原料難に陥り經營慘憺たるものがある。聞く處によれば、農家は自然的事情によつて影響を受け易き之等作物を耕作するより寧ろ旱魃、霖雨に比較的強い大豆、高粱等を栽培することを好みつゝあるといふ。旱魃、霖雨の如き一時の自然的事情と解し得ざるにあらざれど、將來原料を滿洲に求むる事業家は、滿洲の氣候其ものゝ傾向を注意し假令此傾向に反する作物が偶然豐作することあるも之に迷はさるべきではない。過ぐる七月關東廳經濟調查會の商工業特別委員會が「滿蒙に於ける天然資源並に之が開發に必要な天然條件の調査を計畫的に實施すること」を決議したことは蓋し當を得たる處置といふべきであらう。

(二) 同業者との原料購入競争

工場過多といふのではないが、産出少き上更に他の同業者と競争せねばならないものに牛骨、煙草等がある。牛骨は内地牛骨粉製造の原料として邦商の漁り歩く所となり、在滿骨粉業者に不便を感じしめることが多い。煙草も